

---

平成 29 年

# 3 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 中濃農林■さといも **日本農業賞岐阜県代表報告会**

3月7日、中濃里芋生産組合が選出された「第46回日本農業賞集団組織の部岐阜県代表」の報告会が開催された。

報告会に先立ち、農業普及課から産地の歴史やこれまでの産地育成の取り組みについてスライドを用いて説明した。

この受賞を機に、組合の産地拡大への機運が高まっており、販売額1億円を目指すことで一致団結した。

農業普及課では、引き続き新規栽培者の育成支援や作業の省力化体系の確立を行い、産地規模拡大に向け活動していく。



【産地紹介】

### 恵那農林■クリ **東美濃‘クリ地産地消(商)拡大’計画の評価と次期計画を検討**

#### ～「第8回プロジェクトチーム会議」を開催～

3月15日、恵那総合庁舎において、東美濃‘クリ地産地消(商)拡大’プロジェクト第8回チーム会議を開催し、産地拡大計画の評価と次期計画の策定を行った。

会議では、出荷拡大を目指した計画の達成状況を評価し、出荷目標数量150tに対して出荷実績数量は101tにとどまったが、凍害の影響により計画的な出荷とならなかったことが大きな要因と考えられた。

また、今期までの活動をふまえ、今後も産地拡大を図りつつ、産地維持を図る次期計画の内容を検討し、平成33年にJA共販額1.5億円を目標に活動を展開することを確認した。

農業普及課では、東美濃クリ産地の更なる発展に向け、今後もプロジェクト活動の支援を継続する。



【チーム会議の様子】

### 下呂農林■スイートコーン **平成29年の飛躍に向けて～地区リーダー会議・研究会開催～**

3月6日、下呂市スイートコーン研究会は来年度の生産振興計画を協議するため、地区リーダー会議を開催した。

会議では、平成29年の推進体制、生産・加工・販売計画等について検討し、さらなる組織強化を図るための研究会の見直しや、「南飛驒コーン」の名称の下、生産及び販路の拡大、地元高校との協働による加工品の開発、知名度と農業所得の向上に向けて様々な視点から意見を交わした。

3月21日には、「早期出荷」をテーマに第1回下呂市スイートコーン研究会を開催した。

はじめにJAひだから、早期出荷のメリットと栽培時のポイント、販売時の留意点のほか、今後の栽培準備について講義が行われた後、農業普及課から各品種の特性や製作した栽培暦、鳥獣害対策、今年度の研究会の取組み等について説明を行った。

役員改選の後、新会長から挨拶があり、「より良い南飛驒コーンを作るため、全員で勉強していこう」という強い呼びかけがあった。

農業普及課では今後も、生産者や関係機関と協力して「南飛驒コーン」を積極的にPRし、ブランド化を図っていく。



【良い「南飛驒コーン」を一緒に作ろうと呼びかける新会長】

## 多様な担い手づくり

### 岐阜農林■えだまめ **J A ぎふえだまめ部会に若手部が発足**

3月6日、J A ぎふえだまめ部会に若手生産者 25 名で構成する若手部が発足した。

若手部は、各生産者の経営安定や資質向上を図ることと、岐阜えだまめの維持・発展に向けた新たな取り組みなどを立案し、部会に提案していくことなどを目的としている。若手部長からは、「産地が発展していくよう力を合わせて頑張ろう」といった力強い発言があった。

今後、農業普及課では、関係機関と連携し、若手部の活動支援を行い、産地を牽引していく若手リーダーの育成を図っていく予定である。



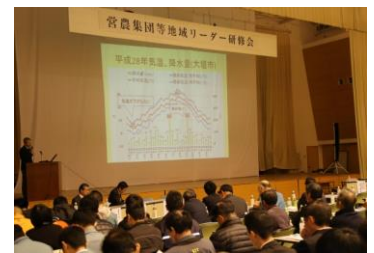
【若手部発足の様子】

### 西濃農林■土地利用型作物 **水田農業の担い手育成**

3月1日、営農集団等地域リーダー研修会（J Aにしみの主催）が、J Aにしみの本店で開催された。この研修会は管内の水田農業の担い手が集まり、情報共有と連携を進め、安定的かつ効率的な水田経営を実現することを目的に毎年行われている。

研修会には約 400 人が集まり、最初に「J Aにしみの旨い米コンクール」の結果発表と表彰が行われた。ハツシモの最優秀賞は輪之内町カワシマ共同が受賞した。T A Cからは良食味米生産を目指す営農指導活動の事例報告等が行われた。

農業普及課からは平成 28 年の水田農業の課題と改善対策について情報提供した。また、東海農政局、県、J A岐阜中央会等、関係機関から平成 30 年以降の水田農業振興の考え方について説明がされた。



【普及課からの情報提供】

### 郡上農林■担い手育成 **新規就農者激励会を開催**

3月15日に郡上指導農業士会・郡上地区青年農業士連絡協議会・郡上園芸特産振興会の主催により、新規就農者激励会が郡上市八幡町のホテル積翠園にて開催された。この激励会には新規就農者 15 名を含む 49 名が出席した。当日は各組織の総会終了後に新規就農者が加わり自己紹介をしたのち、先輩農業者との交流を深めた。

郡上地域の新規就農者と担い手リーダー、主要品目であるだいこん・トマト・ほうれんそう・花・畜産等の生産組織代表者が一同に会する機会は少なく、品目や年齢を超えた交流が図られ、とても有意義な会となった。今回、農業普及課は企画立案から激励会の進行までを行ったが、今後もこの様な支援を続け、新規就農者の仲間づくりを進めていきたい。



【激励会の様子】

### 可茂農林■就農支援 **就農応援会議の設置**（白川・東白川地域）

本年度の秋から、新規就農者を受け入れるための農業分野の枠を越えた支援体制の整備について、関係者で検討を重ねてきており、第 2 回「就農応援検討会」を 3 月 16 日に開催した。

会議は、より実行力のある体制として「就農応援会議」に再編する事として合意し、支援を開始することとなった。中心には新規就農者とあすなる農業塾長、それを就農支援協議会白川支部で支援を行い、農業面以外で発生した問題については、「就農応援会議」の構成員で解決に向けて支援する体制をとる事で合意が得られた。



【就農応援検討会】

## 東濃農林■瑞浪市日吉町 法人設立に向けて本格始動

瑞浪市日吉町深沢地区では、平成29年度に農事組合法人を設立することを1月の集落営農システム検討委員会にて決定した。2月25日に法人設立にかかる集落説明会を開催し、法人設立への合意形成を図ることができた。

3月15日に開催した集落営農システム検討委員会では、本年10月に法人を設立するためのスケジュールを示し、4月以降に発起人を選任して、組織体制及び定款、事業計画書の作成について具体的に進めていくこととした。

農業普及課では、今年度は組織内容と設立時期を決定することを目標としていたが、いずれも明確化することができ、次年度に向けてスタートを切ることができた。次年度は法人設立と農地中間管理機構を通じた農地集積を進めていくこととしており、今後も関係機関と連携して引き続き支援を行っていく。



【集落説明会の様子】

## 飛騨農林■新規就農者 晴れてトマト農家～飛騨地域トマト研修所修了式・入所式～

3月30日、JAひだが運営する「飛騨地域トマト研修所」の第1期生修了式及び第3期生入所式が、JAひだと飛騨市の共催によりJAひだ古川支店で開催された。

1期生は平成27年4月に入所し、2年間の実践研修を修了して4月から晴れてトマト農家の仲間入りを果たす。修了生3名中2名は、合同会社飛騨利本圃を設立して、共同経営でハウス面積50aを栽培、もう1名はハウス面積17aで栽培をスタートする。一方、3期生の3名は、この4月から研修生として入所し、トマトの新規就農を目指して実践研修を受講する。

当日は、3期生がそれぞれ力強い抱負を述べるとともに、JAひだ駒屋組合長、飛騨市都竹市長をはじめ関係者が多数出席し、3名の修了生と5名の研修生の門出を祝福した。

農業普及課では、新規就農者の営農定着を重点指導事項に位置づけて活動しており、修了生に対する栽培技術や経営管理の支援を行っていく。また、トマト研修所については、担当の普及指導員を配置して研修指導に当たり、研修生の就農に向けた支援を進めている。



【修了書を受け取る1期生】

## 売れるブランドづくり

### 農業経営課■飛騨牛 飛騨和牛生産協議会女性部研修会

3月3日(金)飛騨和牛生産協議会女性部(平田嘉子部長)は高山市のひだホテルプラザにおいて技術研修会を開催し飛騨・下呂地域等で繁殖牛を飼育する農家の女性等約50名が参加した。研修会のテーマは「愛情いっぱい夢いっぱい飛騨牛 ～目配り・気配り・女性の視点で健康な子牛をつくらまいか!～」で、農業経営課高山駐在の革新支援専門員が「子牛の下痢を科学する」、飛騨家畜保健衛生所の宮垣真理子獣医師が「飼養衛生管理について」と題した講演を行った後、グループにわかれて意見交換を行う「女子会」を開催した。女子会では「新規参入者の支援やヘルパー制度を作ってほしい」「最近、基礎的な研修会を開催してもらえるのでうれしい」等多数の意見が出された。今回特別参加した中濃地域の女性から「飛騨は先進地なのでこれからも交流会に参加したい」という意見があり、本年9月の全国和牛能力共進会宮城大会に向かって各地域の農家意識が高まっていることが再認識された。



【女性部研修会】

## 住みよい農村づくり

### 揖斐農林■JA、揖斐郡3町との連携「地域農業連携会議」を開催～関係機関で次年度計画検討～

農業普及課では、農村地域や農業生産等の課題を設定し、農業者や関係機関とともに課題解決に取り組むため、年度ごとに「普及指導計画」を策定している。3月1日～6日には、町の農務関係課、JAと次年度計画について機関ごとに打ち合わせを行った。

農業普及課からは「普及指導計画」の課題や指導事項、活動目標等を説明した。各機関からは次年度事業について情報提供してもらい意見交換を行った。会議では、新規就農者、直売所、加工・業務用野菜、GAP、獣害対策、農産物輸出などの取り組みについて活発な意見が出た。

今後も農業普及課は、関係機関と連携し、揖斐地域ならではの普及活動を展開していきたい。



【JAとの会議の様子】